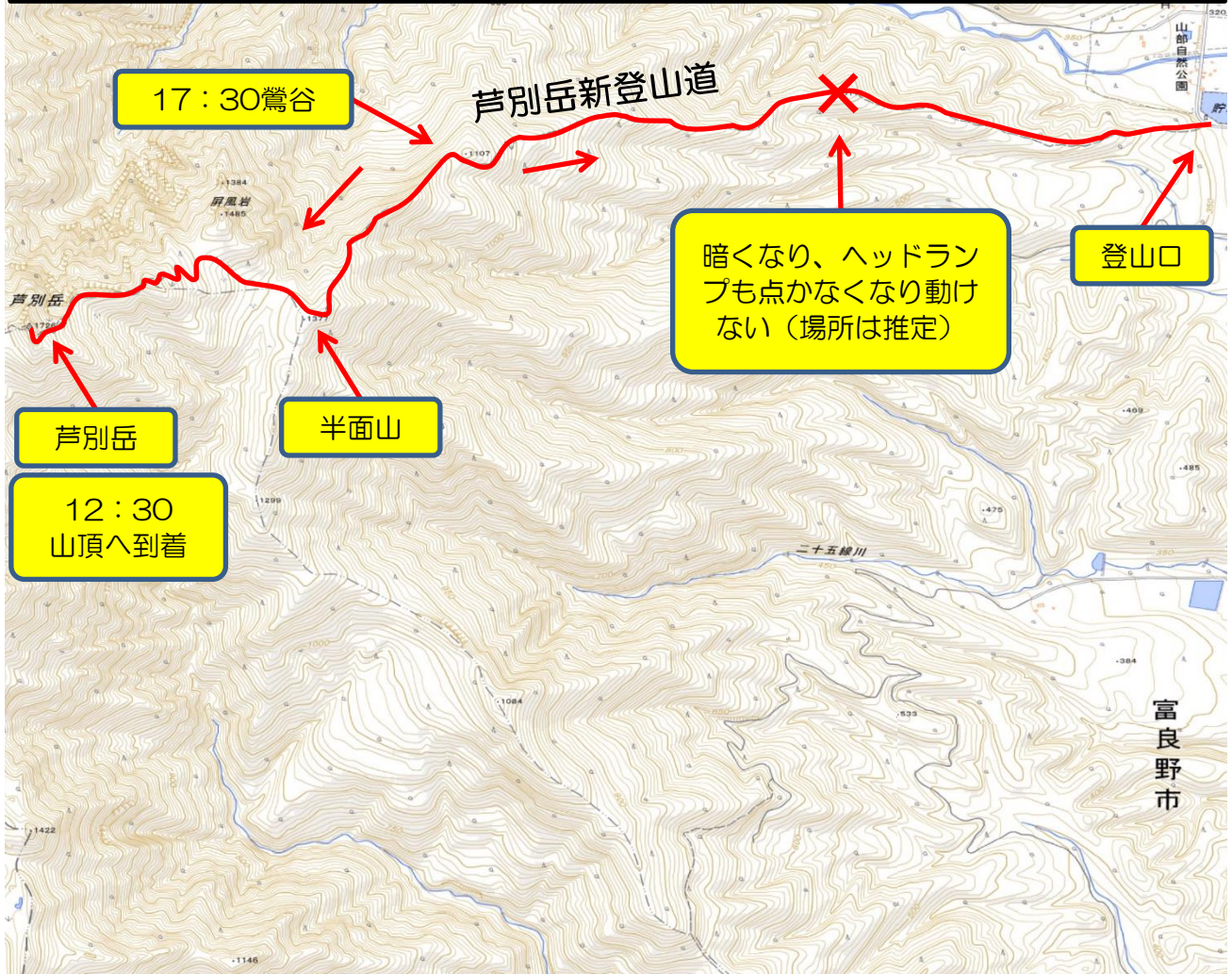


芦別岳遭難(2018年9月)

74歳男性、単独。芦別岳をピストン日帰りの予定が体力の消耗で途中で暗くなる。ヘッドランプは電池がすぐに切れ真っ暗に。予備電池も持っておらず動けないところを宿泊ホテルからの要請で警察が捜索したところ発見され事なきを得た。



解説

宿泊先のホテルが本人に確認するもつながらず、自宅に連絡。芦別岳登山計画が家族に出されていたため、警察に救助要請。警察が捜査したところ下山まであと少しのところまで無事発見された。

①ホテルに予約していたためホテルから家族に連絡があった。②家族に計画書が提出されていたため計画ルートが確認された。③すぐに警察に救助要請した。この3点が今回の助かった要因と思われる。

一方で、①ヘッドライトの電池がすぐに切れてしまった。②予備電池を持っていない。③日帰りといえどもツェルト等のビバーク装備を持っていなかった。④体力が無くなり途中でペースが上がらなかった。等の反省点は心しておきたい。

今回の事例は、道迷い遭難ではないものの十分な装備が登山には必要であるため事例として挙げさせていただいた。登山で一番難しいことは、「当たり前のことを当たり前のように行うこと」である。私もめんどくさがらず、基本的に忠実な行動をしたい。